

2019年 BFJ 国際審判員派遣レポート

一般財団法人全日本野球協会（BFJ）のアマチュア野球規則委員会は、アマチュア野球審判員の技術の向上および人材の確保などを図ることを目的として、「公認審判員の登録・資格制度」（ライセンス制度）を2015年1月に開始しました。このライセンス制度では、「3級」、「2級」、「1級」、「国際」のライセンスに区分されていて、約38,000人のBFJ公認審判員のうち、25人が国際審判員に認定されています（女子審判員3人は仮認定）。なお、国際審判員一覧（写真、所属連盟、派遣実績など）をBFJホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

さて、2019年において世界野球ソフトボール連盟（WBSC）とアジア野球連盟（BFA）の国際大会は、下記のとおり8大会に17人の国際審判員が派遣され、世界各地で活躍しました。なおWBSCはU-12、U-18、プレミア12を、BFAはアジア選手権、女子野球、South East Asia大会、また日米大学野球選手権大会も行われました。その他としては、6月にはWBSC主催のUmpire Clinicがカリフォルニア州サンノゼで開催され、日本から3名が参加しました。また11月には国内でBFJ国際審判員研修会が1泊2日で開催され、WBSC審判長のガス・ロドリゲス氏とWBSCインストラクターの平林氏を招聘して、審判技術や国際大会でのコミュニケーションの取り方などを研修しました。

国際審判員は、国際大会でジャッジするために、国内において様々な準備を重ねています。審判技術、体力、国際ルール等への対応といったグラウンドに直結する要素を研鑽することはいうまでもありませんが、語学（英語・スペイン語）、参加する国の歴史や文化、政治体制、野球の歴史や普及状況など、できる限りのことを調べておくことも必要となります。そして最後には、その国の国民性までも知り尽くしてジャッジすることが、国際審判員として最も大事な取り組む姿勢となります。

この派遣レポートは、2019年に日本代表として活躍した国際審判員の活動をまとめたものです。日本の野球ファンに国際大会の様子を知っていただくとともに、今後国際ライセンス取得を目指している審判員の方々への参考になればと思います。

■2019年の国際大会と派遣国際審判員一覧

期 間	大 会 名	開 催 国	派遣審判員
7/16-7/21	第 43 回日米大学野球選手権	松山 今治 岩国 郡山 東京	武田 泰信 小出 嘉則 高橋 進也 美濃 正隆 清水 康大 富澤 雅貴 田村 光弘
7/26-8/4	第 5 回 WBSC U-12 ワールドカップ	台湾 (台南)	塚田 敦夫
8/19-8/25	第 10 回 BFA U-15 アジア選手権	中国 (深圳)	宮内 一哉 斎藤 太
8/30-9/8	第 29 回 WBSC U-18 ワールドカップ	韓国 (機張)	高橋 進也 スジ-ワ ウィンヤナーカ 佐藤 加奈
10/14-10/20	第 29 回アジア選手権	台湾 (台中)	武田 泰信 大都 篤
11/1-11/17	第 2 回プレミア 12 (予選ラウンド) " (決勝ラウンド)	メキシコ 東京	山口 智久
11/9-11/15	第 2 回 BFA 女子野球アジアカップ	中国 (中山)	松本 京子 和田 佳奈
12/2-12/8	第 30 回 South East アジア大会	フィリピン (パンパンガ州)	三浦 和幸

■WBSC の新たな取り組み

試合では Official Baseball Rules と Baseball Umpire Manual に基づいた試合運行となります。各カテゴリーの大会によっては、大会特別ルールが採用されます。

WBSC では競技のさらなるグローバル化・平等性を重要視し、また東京オリンピックでの成功と 2020 年以降のオリンピック競技継続を目標として革新を実施しました。ユースカテゴリー大会 (U-18・プレミア 12) において、投球時間制限、イニング交代時間制限、マウンド訪問回数の制限、そのほか試合中断を制限する取り組みなど試合運行の改革を進めています。そしてリプレイ検証 (映像でのチャレンジ制度) も導入されました。

ここで、WBSC 国際大会の新たな取り組みを紹介します。

■WBSC Game Management Clocks

1. PITCH CLOCK

走者なしの状況で、投手は20秒以内に投球しなくてはならない。投手がマウンドエリアでボールを受け取るか、また投手がボールを保持したままマウンドエリアに戻ったら、ピッチクロックをスタートする。投球動作が開始されたら、ピッチクロックをストップし、リセットする。打者のファウルや投手が他のプレイをした場合は、PL Umpire がスターティングポジションへ戻り投手がマウンドエリアにいれば、ピッチクロックをスタートする。

PL Umpire がプレイをかけるタイミングではない。

打者はピッチクロックがスタートしたら、10秒以内にバッタースボックス内で準備をしなくてはならない。また少なくとも一方の足をバッタースボックス内に置いておかなければならない。次の状況の場合を除く。

- (1) When the ball is hit.
- (2) On a swing , provided it is the momentum of the swing that takes them out of batter`s box.
- (3) If forced out of the batter`s box to a valid pitch.
- (4) On a wild pitch
- (5) On an attempted play at the plate or by the catcher on a advancing runner or by any player.
- (6) If the catcher is attempting to make a play.
- (7) If time has been called , or the plate umpire leaves his/her position to perform other duties not directly connected with the calling of plays.
- (8) If the pitcher leaves the mound.
- (9) On a three-ball count that the batter thinks the pitch was a ball.
- (10) On a check awing.
- (11) On a bunt attempt.

投手または打者がタイムを要求した場合は、ピッチクロックはポーズ（ストップ）となり、プレイ後はリスタートとなる。（5秒以内まで）リセットにはならない。

投手がピッチクロックに違反した場合は、一度目は投手（同一投手）へ警告、二度目からは打者にボールをカウントするペナルティとなる。打者がピッチクロックに違反した場合は、一度目はチームへ警告、二度目からは投手にストライクをカウントするペナルティとなる。

2. BETWEEN INNING CLOCK

イニングインターバルの時間は、90秒以内に設定される。

イニングインターバルのスタートは、第三アウトが成立したときにスタートとなる。球審は30秒前に捕手へのセカンドスローを促し、打者を呼びよせる。プレイをかけるときには、時間内に投手と打者とが準備出来ていなければならない。準備投球は8球以内に設定される。

ペナルティーはピッチクロック同様である。5イニング終了時のイニングインターバルは、300秒（5分間）に設定される。

3. COACH / MANAGER PITCHER` VISIT CLOCK

コーチまたはマネージャーが投手の元へ行ける時間は、30秒以内に設定される。コーチまたはマネージャーがファウルラインを越えたらスタートする。設定時間が0秒になる前にダッグアウトに向かって歩き始めなければならない。

ペナルティーはピッチクロックと同様である。

4. PITCHING CHANGE CLOCK

投手交代でのインターバルは90秒以内に設定される。球場内のブルペンの位置にもよるが、PL Umpire が交代の通告を受けたとき、あるいは交代する投手がダッグアウトの縁を越えたときとなる。準備投球は8球以内に設定される。

ペナルティーはピッチクロックと同様である。



■ WBSB Replay Guideline

9イニングで1回のチャレンジ権が与えられる。リプレイ可能なプレイのみチャレンジすることができる。

(ホームランコールはいつでも確認することは可能)

- (1) Base Running
- (2) Catch / No catch Play

- (3) Fair / Foul
- (4) Force Plays
- (5) Hit by Pitch
- (6) Potential Home Run
- (7) Collision Rule
- (8) Non-Home Run Boundary
- (9) Slide Rule
- (10) Tag Plays

チャレンジした結果その判定が変更された（成功）場合は、チャレンジ権利は存続するが、判定が変更されなかった（失敗）場合はチャレンジする権利は消失する。クルーチーフによるリプレイ確認は、チャレンジ権が消滅している場合ならびに8回以降はクルーチーフの判断で行うことができる。

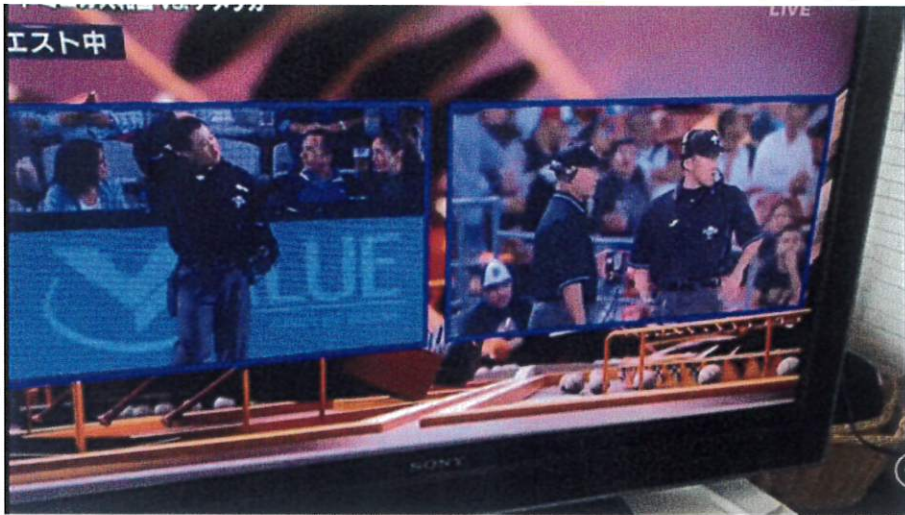
- (1) Potential-Home runs
- (2) Record Keeping situations such
 - a. Counts
 - b. Outs
 - c. Score
- (3) Proper / Improper Line-up

試合が延長回に入れば、チームには新たな1回のチャレンジ権が与えられる。判定に対してチャレンジを考えている監督は、PL Umpire にその意思を10秒以内に伝えて、20秒以内にその最終判断をしなくてはならない。チャレンジを受託した場合は、クルーチーフと当該 Umpire はリプレイブースへ向かいリプレイ担当からの映像確認と最終判断を待つ。クルーチーフが当該審判員である場合は、球審と行う。（最終判断の目安は2分以内）

リプレイ検証をしてプレイの最終判断がなされた場合、クルーチーフがシグナルで知らせる。このクルーチーフによる宣告が最終的な判断となり、誰もこの判断に対しては抗議を行うことはできない。もし抗議を行えば、その者は自動的に試合から除かれる。

PL Umpire（またはクルーチーフ）は、試合前の本塁上でのミーティングのとき、リプレイについて説明をしなくてはならない。

■ Replay and Clock



■ BFJ 国際審判員研修会 (柏市)



■WBSC Umpire Clinic (カリフォルニア州サンノゼ)





■各大会の写真

●日米大学野球選手権



●WBSC U-12 ワールドカップ



●BFA U-15 アジア選手権





●WBSC U-18 ワールドカップ



●BFA アジア選手権



●WBSC プレミア 12





●BFA 女子野球アジアカップ



●South East アジア大会



2020年もWBSCまたBFAの各カテゴリーにおいて、各種国際大会が実施される予定です。またスポーツの祭典である東京オリンピック野球競技は、7/29-8/8まで福島あづま球場と横浜スタジアムで開催されます。

今後も国際大会で感じたことや国内大会との違い、国際交流の様子などBFJのホームページに掲載していければと思います。

今後も国際審判員の活躍を応援していただけると幸いです。

以上